

第2学年 生活科 学習指導案

菊池市立泗水東小学校 教諭 田嶋 駿樹

1 単元名 うごくうごくわたしのおもちゃ（東京書籍「新しい生活・下」P44～55）

2 単元の目標

- 身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、遊びやおもちゃをつくる面白さや、自然の不思議さに気付くことができる。（知識・技能）
- 身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、おもちゃがよりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方を変えたりするなど、工夫しておもちゃや遊びをつくることができる。（思考・判断・表現）
- 身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、みんなで楽しみながら遊びを創り出すことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫して作ったり、遊び自体を工夫したりするものである。また、友だちと遊んだり、教え合ったりしながら、自分なりに工夫することを通して、動くおもちゃの面白さに気付くことができるとともに、遊びを工夫しながら、みんなで遊ぶ楽しさを味わうことができる。自分の創意を生かし、自分の手でおもちゃを作り上げた満足感を味わったり、自分がつくったおもちゃで友達や1年生を楽しませたりすることを通して、自分自身の成長にも気付くことができる教材であると考えている。

(2) 児童観

本学級の児童は、生き物や野菜など自然のものに興味を持つ子が多く、どの学習にも楽しんで取り組んでいる。児童は1年時の学習で、どんぐりや松ぼっくりなどの自然物を使って、遊びを楽しむことができるようになった。しかし、普段の生活の中では、身近にある物を用い、自分で何かを作って遊ぶという経験が乏しい児童が多い。また、個々の活動は夢中になって行うが、友達と関わって十分に教え合ったり、話し合ったりすることができるとは言えない。そこで、動くおもちゃづくりを通して、いろいろな身近にある物に触れて試したり、友達との交流をきっかけとして新たな方法を話し合ったりすることで、友達と工夫してつくったり遊んだりすることの楽しさや、動くおもちゃの仕組みの不思議さに気付かせていきたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、身近にある物を使って遊ぶ活動を行い、どのような素材があるのか、それぞれどのような特徴があるのかなど、様々なものに触れることによって想像の幅を広げさせていきたい。そして、教師がつくったおもちゃで遊ぶことで、身近にある物がどのようなおもちゃやおもちゃの動力になっているのかに気付かせ、おもちゃづくりへの意欲を高めていきたい。

次に、個々におもちゃの作り方を考え、取り組ませていく。その際、同じおもちゃや同じ動力を使う児童同士でグループを作り、教え合いながら活動させていきたい。また、「お試しコーナー」を設置し、

何度も試したり、遊んだり、競争したりなど、友達のおもちゃと比較できるようにしていく。その際、友達のおもちゃの良さに気付かせ、もっとおもちゃを改良したいという思いをもたせたい。

そして、「もっとおもちゃを改良したい」という思いを受けて、おもちゃを改良する場面を設定する。同じおもちゃをつくっている友達と交流したり、1年生に試してもらいながら活動をさせ、どのように改良すると機能が高まるのかを予測させながらつくらせていく。おもちゃの機能だけでなく、交流することによって、教え合ったりアイデアを出し合ったりする友達のよさに気付かせていきたい。

最後に、おもちゃランドを開催して、保育園生をよび自分たちの考えたもので楽しんでもらう経験をして、自己有用感や自己肯定感の高まりにも期待したい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・有限性：普段廃棄しているものでも、工作等に活用できる。
- ・連携性：一人ではできないことも、協力し合えばいろいろなことができる。

○本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・コミュニケーションを行う力

1年生や保育園生をはじめ、多くの人と関わり合うことで、はじめての人にとどう接したらよいか、年齢が下の子にはどう話したらよいかなどを判断し、行動にうつすことができる。

- ・他者と協力する態度

自分一人ではできないと思うことでも、周りとの協力し合いながら、試行錯誤して取り組むことができる。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正

廃棄するものなども活用できることを知り、ものを大切にすることの重要性を感じるができる。

- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

だれかのために、ものづくりをしたり、言動を考えたりすることが、自分たちの幸せにもつながることを実感することができる。

○達成が期待されるSDGs

- 12 つくる責任 つかう責任

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 材料や作り方を工夫することで、おもちゃの動きが変わることに気づいている。	① 実際に試したり、見本などと見比べながら、おもちゃの動きを予想して、使う材料を選んだり、組み立てたりしている。	① 動くおもちゃに関心を持ち、道具や材料を使って、自分なりの目標を持って、粘り強く作り出そうとしている。
② 力の加減や重さなどによって、動きが変わることに気づいている。	② 友達と交流しながら、自分	② おもちゃ作りをする中での友達との関わりを通して、相手の

<p>③ 自分のおもちゃや他のグループのおもちゃの面白さや自然の不思議さに気付いている。</p>	<p>のおもちゃの動きを予測して、試行錯誤しながら、おもちゃの改良をしている。</p> <p>③ よりよいおもちゃ作りやおもちゃランドにするために自分の思いを表現している。</p> <p>④ みんなが楽しく遊べるようにルールや遊び方を工夫したりおもちゃを改良したりしている。</p>	<p>意見を取り入れながら、おもちゃをよりよくしようとしている。</p> <p>③ 園児に、作ったおもちゃを楽しく遊んでもらえるように、声掛けを積極的に行ったり、あたたかい雰囲気を作ろうとしたりしている。</p>
--	---	--

5 単元の指導計画（全16時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価
<p>1 いろいろなおもちゃであそんでみよう（1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見本のおもちゃで遊び、自分のつくりたいおもちゃを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が動くおもちゃの面白さや不思議さなどに気づき、「つくってみたい」と思えるよう、いくつかのおもちゃを準備し、多くの体験ができるようにする。 	<p>知①</p>
<p>2 うごくおもちゃをつくろう（5）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見本のおもちゃや教科書などを参考にして、おもちゃに必要な材料や道具を選んだり、材料を組み合わせたりして自分のおもちゃをつくる。 グループで協力しながら、おもちゃ作りを行い、話し合いなどをしながら、よりよいおもちゃ作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が見通しを持って取り組むことができるように、活動時間や手順、材料の置き場等を工夫する。 全員で作り方の確認を行う。 ICTを活用して、制作したものがどのような動きをしているか記録をとる。 仲間同士で協力し合う場を多く作るために、グループを作成する。また、グループで取り残される児童がいないよう、声掛けをするとともに、一人一つ必ず作成するようにすることで、全員の学びの場も保障する。 	<p>知② 思① 主①</p>
<p>3 もっとよくうごくおもちゃにしよう（5）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分がつくったおもちゃで友達と遊んだり、競争したりするなどしてきづいたことを話し合う。（2年生同士、1年生） おもちゃを改良しながら遊び、 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生同士で遊び、さらによくするためにはどうしたらよいかを話し合う場面を設定する。 再度作って、試し、意見をもらったり、良い部分を真似したりする 	<p>知③ 思② 主②</p>

	<p>よりよく動くように、グループで話し合ったり試して遊んだりする。</p>	<p>ことでよりよくなることを振り返るなどで実感できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜 ICT を活用して記録をとる。また、ふり返りの機会を作り、なやんでいることやうまくいかないことなどを言語化し、記録に残しておくようにする。 ・本番を見据えて、1年生を招待して、おもちゃランドのリハーサルを行い、1年生からの意見ももらいながら、さらによりよくするきっかけを作る。 	
<p>4 みんなとあそぼう（5）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく遊ぶ活動について話し合う。 ・みんなで遊ぶ活動に向けて準備をする。 ・みんなで楽しく遊びながら、ルールや遊び方を工夫したりおもちゃを改良したりする。 ・おもちゃランドを開催しよう。（保育園生） ・これまでの学習活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のリハーサルを踏まえて、保育園生を招待するときには、さらにどんな工夫が必要かをグループで話し合う場面を設定する。 ・1年生の意見や振り返りからでた意見を板書したり、掲示したりして視覚的にとらえられるようにする。 ・保育園生を想定したセリフの使用や説明の仕方、場づくりをしている姿を見取り、全体に広げることで、おもちゃランドをよりよくすることにつなげる。 ・おもちゃランドを終えた振り返り際には、「なぜうまくいったか」「なぜ喜んでくれたか」「これからどうつなげるか」の視点を与える。 ・これまで蓄積された ICT の録画データや言語化されたふり返りの記録を参考に、自分の成長をしっかりとふり返られるようにする。 	<p>思③④ 主③</p>